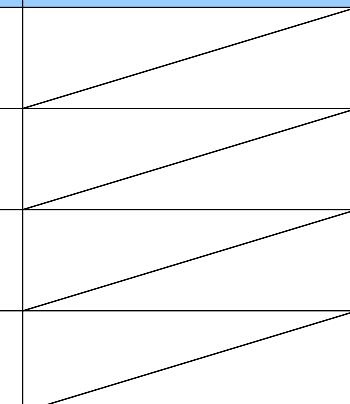
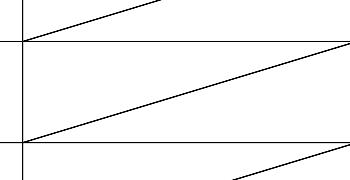
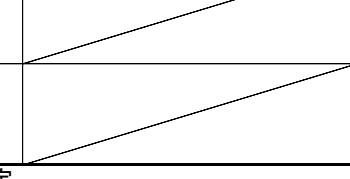
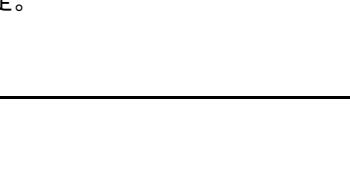


## 2020年度 施策マネジメントシート【2019年度実績評価】

作成: 2020年 6月 12日

施策番号 3-2-2	施策名 子育て環境の充実	基本目標 誰もが健康で自分らしく笑顔で暮らせるまちづくり	
		政策名 安心して子育てできるまちづくり	
	主管課 子育て支援課	課長名 杉山ゆかり	内線 580
施策関係課			

## 1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
子どもの健やかな心身の成長を促すとともに、教育・保育相互の子ども情報の連携、保護者への教育情報の円滑な提供を促進します。		子ども、保護者	子どもの健やかな心身の成長 ・教育・保育相互の連携が進み、保護者への教育情報の提供がスムーズになされる				保護者が安心して子どもを預けることができる
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度(予想)	2022年度目標	
① 保育所の保育サービスに満足している保護者の割合	保護者アンケート	%	認可89.4 農村97.9	95.8	95.0	95.0	
② 保育所待機児童数	実績数	人/年	0	0	0	0	
③							
④							
成果指標設定の考え方	①は、町内保育施設を利用する保護者アンケートの結果を成果指標として設定。 ②は、保育所待機児童数ゼロを継続するため、成果指標に設定。						

## 2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算
施策事業費（千円）	707,283	727,525
人工数(業務量)	4.0687	4.0060

## 3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2019年度の成果評価	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標①は保護者アンケート結果の上昇。 成果指標②は保育所待機児童ゼロの継続。 →保護者が子どもを預けられる体制が維持されていることが要因と考えられる。
②2022年度の目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる  <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能  <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	現状の町内保育施設の事業運営により、保育所待機児童ゼロを継続し、子ども預けられる体制を維持することができるものと推察される。 今後においても、保護者ニーズを確認・検証しながら、取り組む必要がある。
(2) 施策の成果評価に対する2019年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	保育事業 町立保育所運営事業 子どもセンター運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・認可保育所、認定子ども園、小規模保育事業所のほか、町立保育所の運営により、町内の保育施設・環境が整備され、待機児童ゼロの継続に繋がり、保護者の育児と就労の両立支援に繋がった。 ・2019年10月から幼児教育・保育無償化制度により、3~5歳児の利用者負担額が無償化になり、町独自施策として副食費無償化を開始した。保護者の経済負担の軽減が図られた。 ・町内2つの子どもセンター及び1つの児童館の運営により、子どもの放課後の安全安心な居場所が確保された。		

### (3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E	A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した
			○			

※該当に○印

D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない

E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した

### 4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>『施策を取り巻く状況』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の幼児教育保育無償化制度により、保育を必要とする児童が増加している。</li> <li>・放課後児童クラブ及び児童館の利用希望者は、増加が続いている。</li> </ul> <p>『今後の予測』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的な働き手不足という社会情勢のなかで、保育士等の人材不足が懸念される。</li> <li>・多様化する保護者ニーズに対応するため、町内保育事業の充実が求められている。</li> </ul>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病児保育：保育所を利用する保護者から、町内で病児保育を実施してほしい。</li> <li>・幼児教育保育の無償化：子育て世帯の経済負担の軽減に繋がっている。</li> <li>・子どもセンター：総合計画審議会で、様々な保護者ニーズに対して、子どもセンターができること、できることを周知し、保護者に理解してもらうことも必要ではないか。</li> </ul>

### 5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

- 待機児童を出さない保育体制の維持  
保護者の育児と就労の支援ができるよう、保育運営事業者と連携を保ちながら、保護者ニーズを確認・検証する。
- 病児保育を求める保護者への対応  
町内での病児保育実施に向けて、関係機関との協議を進める。
- 幼児教育・保育無償化の実施  
国の3～5歳児の幼児教育・保育無償化に伴い、町独自施策の副食費の無償化を継続する。
- 子どもセンターなどの安定的な運営  
安定的な人材確保による機能的な運営を図るため、民間委託などを検討する。

### 6. 総合計画推進委員会(府内評価)

評価	待機児童ゼロの継続のほか、副食費無償化など町独自の施策により保護者の経済負担軽減を図っており、前進していると評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	今後も保育運営事業者と連携をとりながら進めてもらいたい。	A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した					

### 7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	子育て環境の整備に取り組んでおり、策定時と比較して前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病児保育の町内実施の早い実現を望んでいる。</li> <li>・子育て環境の充実というとどうしても親目線になってしまうため、子どもたちがどう思っているかという視点も大事にしてもらいたい。</li> <li>・子どもセンターの運営については、子どもたちの意見も聞き取って、反映させてほしい。</li> </ul>	A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した					